

第60回日本小児保健協会学術集会 ワークショップ2

子どもを生き育てることが喜びとなる社会を目指して—少子化と男女共同参画—

4つ子妊娠から職場復帰への道のり

和田 佐知子 (千葉県船橋市立高根保育園)

私は、現在5歳になる長男と2歳になる男女2人ずつの4つ子を育てています。忙しいながらも毎日幸せを感じている日々ですが、この現実を受け入れるには私や夫は勿論、長男にも多くの心の葛藤がありました。

長男が2歳半の時妊娠がわかりました。望んだ妊娠なので私も夫もとても嬉しかったのですが、病院で告げられたのは4つ子を妊娠しているという事実でした。リスクの多い妊娠。マイナス面ばかり告げられ、不安と恐怖しかなく、正直最初は全く喜ばませんでした。夫は今回諦めても良いのでは…と言ったほどです。しかし、検診の度に大きくなる4つ子を見るうちに、私も夫も少しずつ前向きに考えられるようになり、夫が密かに4つ子の名前を考えていてくれたことを知った時、頑張っ産もう！と、思うことができました。

出産2か月前から管理入院となり、父子生活が始まりました。泣きながら電話してくる長男、初めてまともに子育てする夫、それは家族3人の試練でもありました。しかし、この試練が夫を子育てに参加させる良い機会であったと今では感じています。

2011年7月21日、未熟児ながらも元気な4つ子を出産しました。辛い妊娠生活が終わり、いよいよ家族7人での生活が始まります。NICUで1か月を過ごし、8月末に退院。ここからは毎日が戦争でした。

私の祖母、母、父に助けてもらい何とか過ごせていた日々。しかし退院から2週間、長男の風邪をもらった4つ子たちが次々と肺炎で入院となりました。呼吸が止まり、挿管されるわが子。入院している子にかかりきりで、長男には寂しい思いばかりさせていました。3歳にしていきなり4人の兄になった長男。弟妹は可愛い、でも我慢することが多く、1人でぼつんと遊んでいる姿が目立ち、そんな姿を見て涙することも多々ありました。両親の必死な姿を幼いながらに理解し、わがままも言わず、よく耐えていたと思います。

小さく生まれたためか、今でも風邪をこじらせ入院することもあります。体力もつき、しっかり自己主張もできるようになった4つ子たち。長男にかまってもらいたくてちょっかいを出し、一緒に遊ぶ姿も見られるようになりました。ここまで大きく成長すれば一安心。ということで、9月に職場復帰をすることにしました。正規で働いているため、復帰をすれば子どもの不調を理由に休むことも容易ではありません。理解ある夫の職場、まだフルタイムで働いている母もできる限り協力してくれるという体制のもとで、私の職場復帰はできることです。女性も男性並みに働くこのご時世。周りの協力なくしては成し得ないことです。今回4つ子を授かったことにより、家事・育児・仕事は家族だけでなく、社会の協力が必要不可欠なのだと、強く感じました。